

中学生の英単語綴り困難のリスク要因に関する縦断的研究

英単語綴りの基礎スキルの習得と単語の透明性の関係における検討

○銘莉実土

中知華穂

小池敏英

(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) (日本学術振興会特別研究員)

(東京学芸大学教育学部)

KEY WORDS: 中学生 英単語 綴り困難

【目的】Mekaru(2017)は、中学生を対象に英単語綴りと漢字書字困難の関係、及びそのリスク要因について検討し、両者に共通する要因としてローマ字スキルを挙げた。検討では、ローマ字のスキルを、子音と母音を1つずつ合成することで1音節を構成できる直音の表記(例:k+a=ka)と、複数の子音と1つの母音を合成する必要がある特殊音節(特音)の表記(例:sh/sy+a=sha/sya)に分けて検討し、直音表記の困難は漢字書字と英単語綴りの重複した困難、特音表記の困難は英単語綴りの特異的な困難に関連していると報告した。この結果については、直音表記の困難は、bedなどの音と文字の対応が規則的な綴りを持つ英単語(規則綴り語)の困難、特音表記の困難はmakeなどの不透明な正書法を持つ単語(不規則綴り語)の困難と関連している可能性が示唆されたが、今後の検討課題とされた。この点について、本研究では、ローマ字の直音・特音表記を含む英単語綴りの基礎スキル(ローマ字・英単語の流暢な視覚的認知・正書法の知識)の習得と、規則綴り語と不規則綴り語の困難の関連について、縦断的に検討することを目的とする。

【方法】対象:東京都内の公立中学校3校の生徒178名を対象に、2013~2015年度にわたって調査を実施した。結果については、個人及び学校名を特定できない形式で発表することを教育委員会を通じて説明し、参加の承諾を得た。

調査課題:英単語の綴りテスト:5社以上の英語の教科書で扱われている単語(名詞・動詞・形容詞)を学年毎に10語ずつ出題した。基礎スキルテスト:基礎スキルテストは、全学年共通の問題を実施した。①ローマ字テスト:3音節の無意味語をローマ字で表記する課題。直音・特音テストを実施した。②英単語検索テスト 3~4文字の有意義単語の文字列を端から黙読し、単語の境界を斜め線で区切る課題。③正書法テスト:3つの単語に共通するアルファベットについて、発音が異なる単語を1つ選択する課題。

【結果・考察】ローマ字の直音・特音表記と他の基礎スキルの習得との関連について検討するため、1・3年生時点でのローマ字直音・特音の成績パターンに基づき、生徒を7群に分けた。○は非低成績(11%タイル以上)、×は低成績(10%タイル以下)を示す(例:1年生時点で直音非低成績、特音低成績、3年生時点で直音・特音ともに非低成績の場合○×→○○)。この群ごとに、英単語検索・正書法テスト成績の学年間の差をScheffeの検定によって検討した。その結果、英単語検索テストについては、○○→○○群、○×→○○群では全ての学年間で、××→××群を除くその他の群では1・3年生間で有意な差が認められた。これより、1年生時点で直音表記に困難を示さず、3年生時点で直音・特音共に困難でない生徒の方が、そうでない生徒と比較して英単語検索スキルの習得が著しいことが示された。正書

法テスト成績については、3年生時点で○○群であった3群で有意な差が認められた(図1)。対照的に、3年生時点で○×群または××群であった生徒は学年間で有意差が認められず、特音表記の困難は、英単語の不規則な正書法における綴りと発音の関係を理解することの困難と関連していることが示唆された。以上の結果より、ローマ字表記の困難が他の基礎スキルの習得の困難と関連しており、特に特音表記に困難を示す場合、正書法スキルの習得が妨げられることを指摘できる。

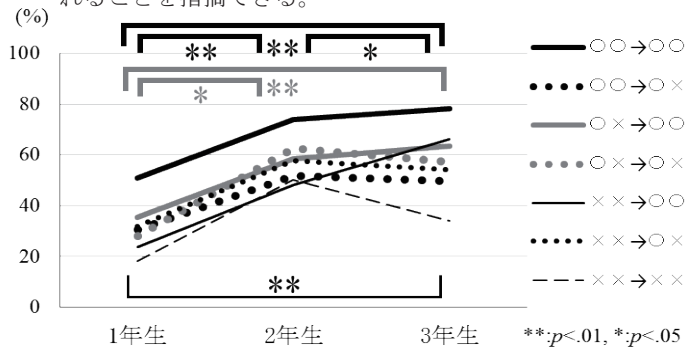


図1 正書法テスト成績の学年間における差

次に、規則・不規則綴り語困難の生起と、基礎スキルとの関連について検討するために、3年生時点での規則・不規則綴り語困難(10%タイル以下)を目的変数、1・2年生時点でのローマ字成績パターンと英単語検索・正書法テストの低成績を説明変数として、二項ロジスティック回帰分析を行った。規則綴り語の綴り困難についてはローマ字スキルと英単語検索スキルの困難、不規則綴り語の綴り困難については特音表記と正書法スキルの困難が、有意なリスク要因として算出され、Mekaru(2017)の報告を支持する結果となった(表1)。これより、1・2年生時点での英単語綴りの基礎スキル成績によって、3年生時点での綴り困難の生起を予測できる可能性が示唆された。従って、基礎スキルの習得を調査することで、英単語綴りに困難を示す生徒を把握できると考えられる。さらに、ローマ字スキルの困難がその他の基礎スキル習得を妨げる可能性が示唆された。これより、小学校でのローマ字成績から中学校での英単語綴り困難を予測できる可能性があり、今後検討が必要である。

(文献) Mekaru (2017) Developmental properties of risk factors causing English spelling and Kanji writing difficulties in Japanese junior high school students. Journal of Special Education Research Vol.5 No.2. pp35-47.

(MEKARU Mito, NAKA Chikaho, KOIKE Toshihide)

表1 規則・不規則綴り語困難の予測リスク要因

	直○特×	直×特×	英単語検索	正書法
規則綴り語	2.27 * (1.10-4.65)	2.54 * (1.06-6.08)	2.59 ** (1.28-5.23)	2.13 (0.97-4.68)
不規則綴り語	2.55 * (1.23-5.30)	2.08 (0.70-6.20)	2.16 (0.98-4.75)	3.12 * (1.28-7.59)

** $p < .01$, * $p < .05$